

【福祉部グループ】三郷中学校 河野真歩

私は、三郷中学校二年、河野真歩です。福祉グループは五人で構成され、健康長寿・福祉のまちづくり・子ども支援について学習してきました。

私は、「地域の方々が学び考える機会」についてお尋ねします。

私は、参加させていただいている「安曇野市中学生学習会」で様々な事を学ばせて頂きました。この学習会で得た少子化が一番重大だと思いました。日本全体で問題となっている少子化が、安曇野市でも起きていて驚きました。そして、自分はいま何ができるかを考えました。この学習会のように、地域の方々に学び考える機会を設けて頂きたいと考えています。私がこの学習会で学んだ中で、地域の方々に助けて頂きながら解決しなければならないと思ったことは、「虐待」、「少子化」、「高齢化」です。この問題を解決するためには、地域の方々にこの安曇野で起きている問題の重大さを学んでいただいで理解してもらい、「こんなことなくそう！」と思って防いでもらうのが一番だと思います。

その実現のために学校の授業で自分の意見を発表する時に、その問題に関係したことを発表したいと思っています。そこで市の方々には先ほど発表したように地域の方々に学ぶ機会を作っていただきたいです。たくさんの方々の問題を「学ぶ機会」を作るなどしていき、安曇野市をよりよいものにしてほしいと思います。

【ご担当部 福祉部】

【福祉部グループ】 三郷中学校 二木悠美子

私は、三郷中学校二年、二木悠美子です。

私は児童虐待についてお尋ねいたします。

児童虐待には、殴る、蹴るなどの身体的虐待、家に閉じこめたり、子育てを放棄するなどのネグレクト、性的行為をするなどの性的虐待、言葉によって脅したり無視をするなどの心理的虐待があります。虐待をする大人には、自分も小さい頃虐待を受けていたり、経済的に貧困であったり、未成年で子供を産んで、本当に望んだわけではなかったりするなどの共通点があるようです。私はこのような問題の原因として、近所どうしの付き合いが薄れているからではないかと考えます。もっと近所どうしでつながりを深めていけば児童虐待をみつめるきっかけにつながっていくと思います。近所どうしのつながりを深めていくために、もっと家族みんながいけるようなイベントを増やし、近所の人に顔をみせられるようにしたら良いと思います。家族みんながいけるような地区行事を提案していきたいです。

市は近所の中に溶け込めるような工夫をし、安曇野のみんなが家族のように感じられる市を作っていけたら良いと思います。児童虐待を減らしていくために、近所どうしのつながりを大切にしていっていきべきではないでしょうか。

【ご担当部 福祉部】

【福祉部グループ】豊科北中学校 小澤 美祐

私は、豊科北中学校二年、小澤美祐です。私は子供支援についてお尋ね致します。

現在、ひとり親支援・子ども手当・子育て給付金が給付されていて今年から子育て応援手当が給付されます。これは少子化対策にはなりますが、お金では解決できない親の悩みもあると思います。それはのちのDVにつながると考えています。そうなる前に相談に乗ってあげると良いと思います。プロの方ではなく母親同士、父親同士のふれあいの場をつくるいいと思います。その実現のため私はイベントなどを考えていきたいです。

また、市はふれあえるような施設をつくっていただきたいと考えます。例えば、安曇野の豊かな自然を生かした公園などです。そうすることで親同士のふれあいも生まれ、相談し合うこともできると思います。相談することで子育ての不安が薄れると思います。

市が課題解決のために動き、そして自分も参加することで市は将来、少子高齢化が改善され、子どもやその親のDV被害が減少すると思います。親のふれあいの場をつくることで子育てのつらさや楽しさを共感でき、DVなども防ぐことができると思うので実施してみてもいいでしょうか。

【ご担当部 福祉部長】

【福祉部グループ】豊科南中学校 横川 伊吹

私は、豊科南中学校二年、横川伊吹です。

私は学習を通じて、保険金や税金、医療費など、高齢者が病気によりお金を利用することを知り、高齢化が進む現代では、多くのお金がかかっているそうです。利用金額を減らすためには、病気になることを予防したり、介護予防が必要だと知りましたが、ここで課題だと思うのは、お金の利用者がまだいる。ゼロではないということです。

なぜその様になっているかは、予防が不足しているからだと思います。

それに対して、自分ができることは、周りに住んでいる高齢者の様子を普段からコミュニケーションを取り、観察することです。

でも、自分だけでは不十分なので、市にしてもらいたいことは、二つの立場の人への呼びかけです。

一つ目は、健診を受けることをちょうどいいタイミングで高齢者へ呼びかけ、二つ目は、その周りの方々に、「周りの方の様子を見て、健診を勧めてあげてください。」などの呼びかけをすることです。

その呼びかけとともに、高齢者自身が生きがい、健康づくりのできる遊具を設ければ、遊具に通ううちに仲間もでき、健康になり生きがいを作ることができると思います。

結果、高齢者が中心となる活気溢れる、素敵な安曇野になると思います。

【ご担当部 保健医療部長】

【福祉部グループ】 穂高西中学校 曾根原怜

私は、穂高西中学校二年、曾根原怜です。

私は安曇野市の健康についてお尋ねいたします。安曇野市の平均寿命は全国の市区町村の四十位で寿命は長くよいのですが、がんや脳卒中での死亡率が高く、これは全国平均よりも上であるとお聞きしました。死亡率が高いのは、癌が末期になるまで受診しなかったり、脳血管疾患にかかる人が多いからだそうです。そのため介護が必要になる人が増え、安曇野市は県内十九市の中で四番目に医療費の額が多いという結果につながってしまっていると思います。

これを改善するには、もっと健康診断に行きやすい環境づくり、そして健康を守るためのアドバイスが必要だと思います。

これを実現するために私は、身近な人にこの結果を伝え、普段から健康に気をつけたり、健康診断に行くように呼びかけたりすることをしたいと思います。そして、安曇野市は健康診断に行きやすい環境づくりのために、例えば、婦人科健診の時に女性が行きやすいよう産婦人科の医師を男性の医師ではなく、女性の医師にかえる。ということはどうでしょうか。こうすることで女性が受診しやすくなり、子宮癌の予防につながると思います。

こうしたささいなことでも少しずつ変えていくことで健康診断に行く人が増えると思います。また、健康を守るために、健康診断に行った際に、食生活の改善や、生活リズムの改善について、実行してみようと思えるようなアドバイスをすることで健康への意識が高まると思います。

こうしたことを行うことで安曇野市の寿命は一段と伸び、がんや脳卒中による死亡率は下がっていくと思います。

【ご担当部 保健医療部】